

平成 22 年度公募にかかる応募書類の作成・提出等について

1. 研究計画調書の作成・提出等について

(1) 応募書類の提出（送信）期限等

「特定領域研究」、「特別推進研究」、「基盤研究」、「挑戦的萌芽研究」、「若手研究 S・A・B」及び「新学術領域研究」の応募書類の提出（送信）期限は、下記のとおりです。この期限より後に提出（送信）があっても受理しませんので、時間に十分余裕を持って提出（送信）してください。

また、応募書類の提出（送信）後に、研究計画調書等の訂正、再提出等を行うことはできません。

なお、応募書類提出（送信）期限の前日の時点で「所属研究機関が未承認の研究課題等」(注)が残っていた場合、日本学術振興会より、確認を依頼する電子メールが e-Rad に登録された研究機関のアドレスに送信されます。

このため、全ての応募書類の提出（送信）を済ませ手続きが完了した場合であっても、e-Rad に登録されたアドレスにこのメールが届いていないかどうか、締切り前に必ず確認してください。

(注)「所属研究機関が未承認の研究課題等」とは、応募者（研究代表者）から所属研究機関担当者に領域計画書、研究計画調書、応募情報が提出されているものの、当該研究機関による承認又は確認手続きが完了していない状況を指します。

日 時	研究代表者の行う手続き	研究機関が行う手続き
平成 21 年 9 月 1 日（火）～ 公募開始	①所属する研究機関から付与された 府省共通研究開発管理システム （e-Rad）の「ID・パスワード」 により、電子申請システムにアク セスし、応募書類を作成 ↓ ②所属する研究機関が設定する提出 （送信）期限までに、当該研究機 関に応募書類を提出（送信）	ア) 府省共通研究開発管理システム （e-Rad）運用担当から e-Rad の「研 究機関用の電子証明書及び ID・パ スワード」を取得（既に取得済の場 合を除く） ※ ID・パスワードの発行に 2 週間 程度必要。 イ) e-Rad への研究者情報の登録等 ウ) 研究代表者に「ID・パスワード」 を発行（既に発行済みの場合を除く） エ) ガイドラインに基づく体制整備等 の実施状況報告書の提出 オ) <u>応募書類の提出（送信）</u>
11 月 10 日（火） 午後 4 時 30 分 提出期限		

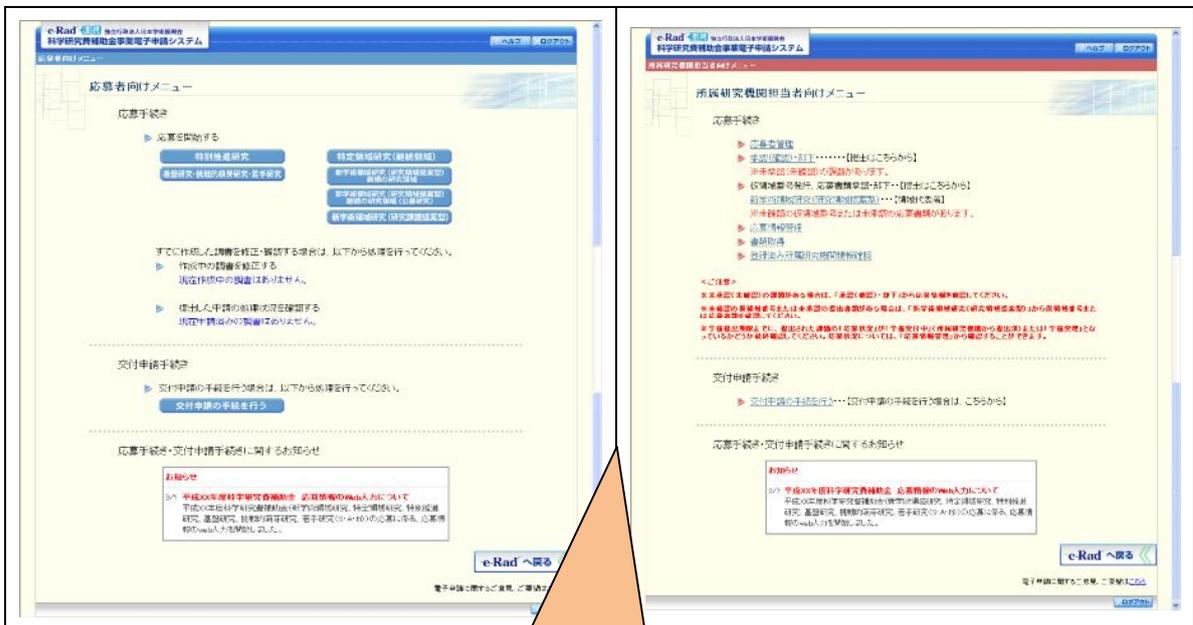
※ 府省共通研究開発管理システム（e-Rad）にかかる手続き、ガイドラインに基づく体制整備等の実施状況報告書にかかる手続き等については、公募要領の該当ページ（P38～40（文）、P50～52（学））等も参照してください。

(2) 記入例等

○応募情報の入力に当たっての注意

- ・入力画面上で「*」の付された項目は、必須の入力項目です。
- ・入力中、一定時間の操作が行われない場合は、「電子申請システム」との接続が遮断され、入力した情報が保存できなくなる場合がありますので、随時、「一時保存」ボタンを押して情報の保存を行う必要があります（なお、応募情報入力画面を表示または「一時保存」を行ってから経過時間と合わせて、入力した情報の最終保存日時を画面上に表示しています。）。

= トップメニュー画面 =



- ・ 応募者、機関担当者、部局担当者の処理手続きごとにカテゴリーを整理しています。
- ・ 応募・申請に関する重要なお知らせを表示する画面を新設しています。

=応募情報(Web入力項目)=

※ 以下の「入力画面イメージ」については、基盤研究(A・B)(一般)の様式で例示しています。

①入力画面イメージ(応募情報:「新規・継続区分」～「開示希望の有無」)

e-Rad連携 独立行政法人日本学術振興会
科学研究費補助金事業電子申請システム

ヘルプ ログアウト

応募者向けメニュー > 研究計画調書作成(応募情報入力 > 応募情報又は研究計画調書確認 > 応募情報又は研究計画調書確認完了)

応募情報入力 画面を表示してから29分経過

最終保存日時: XXXX年XX月XX日 XX時XX分

<注意事項>

- *のついた項目は必須項目です。
- 入力中に、一定時間、ボタン操作をせずにおくと、セッションタイムアウトにより、入力した情報が保存されない場合があります。情報を保存して下さい。もし、セッションタイムアウトのエラーメッセージが出た場合は、「電子申請のご案内」ページで確認してください。
- 複数ウィンドウ(複数タブ)を開いて利用すると、システムが正常に動作しない場合があります。複数ウィンドウを開いて利用しないようにしてください。

一時保存をして次へ進む 一時保存 保存せずに戻る

平成22年度(2010年度)基盤研究(AB)一般 研究計画調書

① 新規・継続区分 * (「継続」には、研究計画の大幅な変更を行うとする継続の課題のみ該当します。)
(継続の場合、研究課題番号を記入)

② 研究計画最終年度
前年度応募の有無 * (応募する場合、平成22年度が研究期間の最終年度に当たる研究計画の課題番号を記入)

③ 細目番号 * (一覧)
分割番号
分野
分科
細目

④ 細目表キーワード * (一覧) (「細目表キーワード」から、入力した「細目番号」中の該当するキーワードの
細目表以外のキーワード)

⑤ 研究代表者氏名 (フリガナ)ダイヒョウ イチロウ
(漢字等)代表 一郎
所属研究機関 (番号)99999 AAA大学
部局 (番号)999 ○○部 (その他の番号を使用した場合は「研究員」欄に記入)
職 (番号)20 教授 (「研究員」、「その他」を選択した場合に記入)
⑥ 研究課題名 (全角40字以内。半角は使用不可)

画面を表示してから29分経過 一時保存

【研究経費(千円未満の端数は切り捨てる)】(0の場合も記入すること。)

⑦

年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
平成22年度	0*	0	0	0	0	0
平成23年度	0*	0	0	0	0	0
平成24年度	0*	0	0	0	0	0
平成25年度	0*	0	0	0	0	0
平成26年度	0*	0	0	0	0	0
総計	0	0	0	0	0	0

⑧ 開示希望の有無 * (画面を表示してから29分経過 一時保存)

最終保存日時を表示

最終保存日時からの経過時間を表示

入力画面上に「一時保存」ボタンを複数設置

②入力画面イメージ(応募情報：「研究組織」～「応募内容ファイル選択」表)

【研究組織(研究代表者、研究分担者及び連携研究者)】

※[追加]ボタンをクリックして研究分担者及び連携研究者を登録してください。
 ※研究組織の入力欄は、入力画面左側の[追加]ボタンを必要な回数押すことでデータ入力枠が設定された場合については、当該欄の左側の[削除]ボタンを押してデータ入力枠を削除してください。

画面を切り替えることなくすべての応募情報が入力できるよう画面構成を変更

区分	氏名(年齢)	所属研究機関 部署	1.現在の専門 2.学位 3.役割分担	平成22年度 研究経費 (千円)	エフォート(%)
研究代表者	(研究者番号)99999999 (フリガナ)ダイヒョウ イチロウ (漢字等)代表 一郎 00才	(番号)99999 AAA大学 (番号)999 AA学部 (番号)20 教授	1.* 2.* 3.*	0	
[削除]	* (研究者番号) <input type="text"/> (フリガナ) (姓)* (名) <input type="text"/> (漢字等) (姓)* (名) <input type="text"/> * <input type="text"/> 才	* (番号) <input type="text"/> * (番号) <input type="text"/> (和文) (その他の番号を使用した場合に記入) * (研究者), [その他を選択した場合に記入]	1.* 2.* 3.*	0	
[削除]	* (研究者番号) <input type="text"/> (フリガナ) (姓)* (名) <input type="text"/> (漢字等) (姓)* (名) <input type="text"/> * <input type="text"/> 才	* (番号) <input type="text"/> * (番号) <input type="text"/> (和文) (その他の番号を使用した場合に記入) * (研究者), [その他を選択した場合に記入]	1.* 2.* 3.*	0	
[追加]					

研究組織人数 3名

画面を表示してから29分経過 一時保存

⑩ 応募内容ファイル選択

記入した応募内容ファイル (Word又はPDF)を選択してください。

参照...

- 応募内容を修正する場合は、修正済みの応募内容ファイルを選択しなすと、前の応募内容ファイルは削除されて...
- 応募内容ファイルに修正がない場合、応募内容ファイル選択欄は空欄のままでも構いません。
- 応募内容ファイルについてはWordファイルの代わりにPDFファイルを選択することも可能です。(PDFファイルは応募内容ファイル様式(Word又は本会並びに文部科学省が提供する様式)を基に作成したものに限りします。)

一時保存をして次へ進む 一時保存 保存せずに戻る ログアウト

入力した応募情報をPDF化する前に確認ができるよう機能を充実

①新規・継続区分

「継続」を選択した場合は、当該研究課題の研究課題番号の入力が必要となります。なお、「特別推進研究」、「基盤研究」及び「若手研究」では、「継続」を選択できる課題は、「研究計画の大幅な変更を行う」とする課題に該当する場合に限られます。

また、研究計画最終年度前年度の応募の場合には、「新規」を選択してください。

②研究計画最終年度前年度応募の有無

この欄で「応募する」を選択できる課題は、日本学術振興会の公募要領16頁(⑤重複応募制限の特例)に該当する場合に限られます。また、「応募する」を選択した場合は、当該研究課題の研究課題番号の入力が必要となります。

③細目番号

「細目番号」は、日本学術振興会の公募要領33～48頁「系・分野・分科・細目表」付表キーワード一覧の中から選択し、また、分割番号が設定されている細目を選択する場合は、必ず分割番号を入力する必要があります。なお、分割「A」「B」については全ての研究種目、分割「1」～「5」については基盤研究(C)のみにおいて選択が必要となります。

④細目表キーワード

「細目表キーワード」は、日本学術振興会の公募要領33～48頁「系・分野・分科・細目表」付表キ

ワード一覧の中から必ず一つ選択する必要があります（「基盤研究(C)」の時限付き分科細目で応募する場合を除く。）。また、「基盤研究(A・B)」の審査区分「海外学術調査」には、キーワード欄はありません。

⑤研究代表者氏名・所属研究機関・部局・職

自動表示された内容（研究代表者氏名・所属研究機関・部局・職）に誤り又は変更等が生じた場合は、研究機関の担当者により、速やかにe-Radを通じて研究者情報の登録内容の更新手続きが行われる必要があります。

⑥研究課題名

「研究課題名」の入力は40文字以内で入力してください。英語でも構いませんが、アルファベット、数字、記号等の入力は全角で入力してください。

⑦研究経費

千円単位で入力する必要があります。例年、桁数誤りと思われるものが見受けられます。

⑧開示希望の有無

ここで「開示を希望しない」とした場合は、後日、「やはり開示してほしい」との連絡があっても受け付けることはできません。

⑨研究組織

研究分担者及び連携研究者については、全ての項目について正しい情報を正確に入力する必要があります（研究者番号を入力しても、「氏名（フリガナ、漢字）」「年齢」「所属研究機関・部局・職」には、研究者情報は自動表示されません。）。

⑩応募情報ファイルの選択

「研究計画調書」を完成させるためには、あらかじめ作成した「応募内容ファイル」を選択し、添付する必要があります。

様式S-1-7 応募内容ファイル（添付ファイル項目）

※以下①～⑧については、基盤研究(A・B)(一般)の様式で、⑨については、挑戦的萌芽研究の様式で例示しています

①「研究目的(概要)」欄

○審査委員が研究目的を端的に把握できるように、研究目的の概要について簡潔に記述してください。(「基盤研究」「挑戦的萌芽研究」「若手研究」が該当します。)

様式S-1-7 応募内容ファイル（添付ファイル項目）

基盤A・B(一般) - 1

研究目的

本欄には、研究の全体構想及びその中での本研究の具体的な目的について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、適宜文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。(記述に当たっては、「科学研究費補助金(基盤研究等)における審査及び評価に関する規程」(公募要領56頁参照)を参考にしてください。)

- ① 研究の学術的背景(本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置づけ、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等)
- ② 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

研究目的(概要) ※ 当該研究計画の目的について、簡潔にまとめて記述してください。

研究目的の概要について簡潔にまとめること。

②「研究計画・方法(概要)」欄

○審査委員が研究計画・方法を端的に把握できるように、研究計画・方法の概要について簡潔に記述してください。(「基盤研究」「挑戦的萌芽研究」「若手研究」が該当します。)

基盤A・B(一般) - 3

研究計画・方法

本欄には、研究目的を達成するための具体的な研究計画・方法について、冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述した上で、平成22年度の計画と平成23年度以降の計画に分けて、適宜文献を引用しつつ、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。ここでは、研究が当初計画どおりに進まない時の対応など、多方面からの検討状況について述べるとともに、研究計画を遂行するための研究体制について、研究分担者とともに行う研究計画である場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割(図表を用いる等)、学術的観点からの研究組織の必要性・妥当性及び研究目的との関連性についても述べてください。

また、研究体制の全体像を明らかにするため、連携研究者及び研究協力者(海外共同研究者、科学研究費への応募資格を有しない企業の研究者、大学院生等(氏名、員数を記入することも可))の役割についても必要に応じて記述してください。

研究計画・方法(概要) ※ 研究目的を達成するための研究計画・方法について、簡潔にまとめて記述してください。

研究計画・方法の概要について簡潔にまとめること。

③「研究業績」欄

- 研究種目によっては、最近5カ年間の業績に限定している場合と、そうでない場合がありますので、様式の指示書等を確認しながら作成してください。
- 研究代表者及び研究分担者の業績が次頁以降にわたる場合は、その後に連携研究者の業績記入欄を設けてください。
- 同一の論文等を研究代表者、研究分担者、連携研究者で共同執筆している場合は、それぞれの業績として別々に記入するのではなく、いずれか一人のところにのみ記入するようにしてください。

基盤A・B（一般）－7

研究業績	
<p>本欄には、研究代表者及び研究分担者が最近5カ年間に発表した論文、著書、産業財産権、招待講演のうち、本研究に関連する重要なものを選定し、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり、発表年（暦年）毎に線を引いて区別（線は移動可）し、通し番号を付して記入してください。なお、学術誌へ投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。</p> <p>また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別（二重線は移動可）し、研究者毎に、現在から順に発表年次を過去にさかのぼり記入してください（発表年毎に線を引く必要はありません。）。</p>	
発表年	<p>研究代表者・分担者氏名</p> <p>発表論文名・著書名 等 （例えば発表論文の場合、論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください。） （以上の各項目が記載されていれば、項目の順序を入れ替えても可。著者名が多数にわたる場合は、主な著者を数名記入し以下を省略（省略する場合、その員数と、掲載されている順番を○番目と記入）しても可。なお、研究代表者には二重下線、研究分担者には一重下線、連携研究者には点線の下線を付してください。）</p>
2009以降	<p>半蔵門 太郎</p> <p>1. 論文名 <u>半蔵門太郎</u>、○○○○、▽▽▽▽(他8名、1番目) ××学会誌 9巻 査読有 51-58 (2009)</p> <p>研究代表者には二重下線。</p> <p>麴町 一郎</p> <p>2. 論文名 □□□□、麴町一郎、●●●●●(他5名、2番目) ◎◎学会誌 3巻 査読有 120-125 (2009)</p>
2008	<p>半蔵門 太郎</p> <p>3. 論文名 <u>半蔵門太郎</u>、▽▽▽▽(他4名、1番目) ◇◇論文集 12巻 査読有 78-86 (2008)</p> <p>研究分担者には一重下線。</p> <p>永田 町男</p> <p>4. 論文名 永田町男、学術仙太(他7名、1番目) ☆☆学会誌 5巻 査読有 95-101 (2008)</p>
2007 ...	<p>研究代表者・分担者欄全体の通し番号を付す。</p> <p>連携研究者欄は二重線で区別。</p>
連携研究者氏名 (所属研究機関・部局・職)	<p>発表論文名・著書名 等 (研究代表者及び研究分担者の研究業績として上欄に記載したものは記載しないでください。)</p>
学術 仙太	<p>1. 論文名 学術仙太、○○○○(他6名、1番目) ■■ジャーナル 20巻 査読有 21-24 (2008)</p> <p>連携研究者には点線の下線。</p> <p>2. 論文名 学術仙太、◆◆◆◆(他2名、1番目) ▽▽学会誌</p> <p>連携研究者欄内での通し番号を付す。</p>

④「これまでに受けた研究費とその成果等」欄

- 特に必要であれば、今回応募する研究課題の研究代表者または研究分担者が、他の研究課題の研究分担者として参画したものについて記入しても構いません。
- 特に必要であれば、平成19年度以前の科学研究費補助金において研究費の配分を受けない研究分担者として参画したものについて記入しても構いません。

基盤A・B（一般）－10

これまでに受けた研究費とその成果等

本欄には、研究代表者及び研究分担者がこれまでに受けた研究費（科学研究費補助金、所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受けている研究費も含む。）による研究成果等のうち、**本研究の立案に生かされているもの**を選定し、**科学研究費補助金とそれ以外の研究費に分けて**、次の点に留意し記述してください。

- ① それぞれの研究費毎に、研究種目名（科学研究費補助金以外の研究費については資金制度名）、期間（年度）、研究課題名、研究代表者又は研究分担者の別、研究経費（直接経費）を記入の上、**研究成果及び中間・事後評価（当該研究費の配分機関が行うものに限る。）**結果を簡潔に記述してください。（平成20年度又は平成21年度の科学研究費補助金の研究進捗評価結果がある場合には、基盤A・B（一般）－11「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄に記述してください。）
- ② 科学研究費補助金とそれ以外の研究費は線を引いて区別して記述してください。

平成19年度以前の科学研究費補助金において、研究費の配分を受けない研究分担者として参画したものについても記述可。

科学研究費補助金とそれ以外の研究費に分けて記入。

- ①研究種目名、②期間（年度）、③研究課題名、④研究代表者又は研究分担者の別、⑤研究経費（直接経費）を記入の上、研究成果及び中間・事後評価結果を簡潔に記述。

⑤「研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性」欄

- 平成20年度又は平成21年度に研究進捗評価※を受けた研究課題の研究代表者が新規応募する場合には、必ず記入してください。

基盤A・B（一般）－11

研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性

- ・本欄には、本応募の研究代表者が、平成20年度又は平成21年度に、「特別推進研究」、「基盤研究（S）」又は「学術創成研究費」の研究代表者として、研究進捗評価を受けた場合に記述してください。
- ・本欄には、研究計画と研究進捗評価を受けた研究課題の関連性（どのような関係にあるのか、研究進捗評価を受けた研究を具体的にどのように発展させるのか等）について記述してください。

※研究進捗評価

特別推進研究、基盤研究（S）、若手研究（S）、学術創成研究費において、研究課題の進捗状況を把握し、当該研究のその後の発展に資することを目的として、研究期間が4年以上の研究課題については最終年度の前年度に実施される（研究期間が3年の研究課題については最終年度に実施）。なお、平成19年度から公募を開始した若手研究（S）については、平成22年度以降に初めて研究進捗評価を受けることとなる。

⑥「設備備品費の明細・消耗品費の明細」欄

- 何をどれだけ購入するのか、できるだけ具体的に記入してください。
- 年度毎に線を引いて区分してください。また、年度ごとに合計金額を記入してください。
- いずれかの年度において、「設備備品費」が全体の研究費の90%を超える場合には、当該経費の必要性を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

基盤A・B（一般）－13
(金額単位：千円)

設備備品費の明細			消耗品費の明細	
[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]			[記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。]	
年度	品名・仕様 (数量×単価) (設置機関)	金額	品名	金額
22	○○システム (～～社製 型番00-00) 一式 (内訳) ・○×装置 ・□△○器 ・モニタ用PC ☆☆大学	12,000	○○○○ ○△○△ ☆○☆○	500 80 800
	計	12,000	計	1,380
23	△△式◇◇検出器 (仕様・・・・・・) 1台 ☆☆大学	3,500	□○□○ ○○○○	300 500
	□□装置 (型番A999) 3台×@900 ☆☆大学、★★大学	2,700	□□□□ ▽□▽□	10 90
	計	6,200	計	900

⑦「旅費等の明細」欄

記入に当たっては、研究計画調書作成・記入要領を十分に参照してください。

- 行き先、期間等、できるだけ具体的に記入してください。
- いずれかの年度において、「旅費」または「謝金等」が全体の研究費の90%を超える場合、及び「その他」において特に大きな割合を占める経費がある場合には、当該経費の必要性(内訳等)を「研究経費の妥当性・必要性」欄に記述してください。

基盤A・B（一般）－14
(金額単位：千円)

旅費等の明細 (記入に当たっては、基盤研究(A・B)(一般)研究計画調書作成・記入要領を参照してください。)								
年度	国内旅費		外国旅費		謝金等		その他	
	事項	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額
22	打合せ ○○大学 2日間	70			▲▲実験補助 5人×8日	200	～～分析委託 実験廃棄物処理費	1,500 800
	▲▲実験 ☆☆研究所 4日間	150			計			
	計	220						
23	打合せ ○○大学 2日間×3回	210	学会発表 ロンドン 7日間	800				
	資料収集 ○○研究集会 4日間	150						
	計	360	計	800				

「その他」については、設備備品費、消耗品費、旅費、謝金等のほか当該研究を遂行するための経費が該当します。研究計画調書作成・記入要領に例示を示しておりますが、例示以外のものでも該当するものについて記入することができます。なお、今回、例示として「実験廃棄物処理費」を追加しています。

⑧ 「研究費の応募・受入等の状況・エフォート」欄

研究代表者の応募時点における「(1) 応募中の研究費」、「(2) 受入予定の研究費」、「(3) その他の活動」、について、次のことに留意し、それぞれの状況を記入してください。

○「(1) 応募中の研究費、(2) 受入予定の研究費」欄には、科学研究費補助金のみならず「世界トップレベル研究拠点プログラム」などの競争的資金制度についても記入してください。なお、「最先端研究開発支援プログラム」など平成21年度補正予算において措置された競争的資金制度についても記入してください。

○複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。

○所属研究機関内で競争的に配分される研究費についても、「(1) 応募中の研究費」、又は「(2) 受入予定の研究費」に記入してください。

○所属研究機関内で、研究活動等を職務として行うため一律に配分されるような基盤的経費については、「(1) 応募中の研究費」、又は「(2) 受入予定の研究費」に記入する必要はありませんが、そのような経費を活用して行う研究活動等のエフォートは「(3) その他の活動」に記入してください。また、科学研究費補助金の連携研究者として参画している研究課題に係るエフォートは、「(3) その他の活動」に記入してください。

研究代表者のみ作成・添付

基盤A・B（一般）－15

研究費の応募・受入等の状況・エフォート

本欄は、第2段審査（合議審査）において、「研究資金の不合理な重複や過度の集中にならず、研究課題が十分に遂行し得るかどうか」を判断する際に参照するところですので、**本人が受け入れ自ら使用する研究費**を正しく記載していただく必要があります。本応募課題の研究代表者の応募時点における、(1) 応募中の研究費、(2) 受入予定の研究費、(3) その他の活動、について、次の点に留意し記入してください。なお、複数の研究費を記入する場合は、線を引いて区別して記入してください。具体的な記載方法等については、研究計画調書作成・記入要領を確認してください。

- ① 「エフォート」欄には、年間の全仕事時間を100%とした場合、そのうち当該研究の実施等に必要となる時間の配分率(%)を記入してください。
- ② 「応募中の研究費」欄の先頭には、本応募研究課題を記入してください。
- ③ 科学研究費補助金の「新学術領域研究（研究領域提案型）」又は「特定領域研究」にあつては、「計画研究」、「公募研究」の別を記入してください。
- ④ 上段に平成22年度に本人が受け入れ自ら使用する直接経費の額（分担金として配分する額を含まない。応募中のものは応募額）を記入し、下段に（ ）書きで研究期間全体で受け入れ自ら使用する直接経費の総額（予定額）を記入。

資金制度 間（配分	研究費の 種別	平成22年度 の研究経費 (期間全体の額) (千円)	エフ オー ト (%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由
【本応募 基盤研究 (A) (一般) (H22~H24)	代表	7,000 (20,000)	20	研究期間全体の直接経費の総額：40,000千円
基盤研究 (S) (H22~ H26)	代表	10,000 (40,000)	—	研究期間全体の直接経費の総額：150,000千円 ××××××××××××××××
基盤研究 (C) (H22~ H24)	分担	500 (1,500)	5	重複応募が可能であっても、重複して採択されることのない種目を記載する場合は「—」を記入。 ××××××××××
○○○プログラ (H22~H26)	代表	50,000 (20,000)	30	プログラム全体の受け入れ額：1,000,000千円 ×××××××××××××× ××××××××××××××

「研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由」欄に、科学研究費補助金の研究代表者である場合は研究期間全体の直接経費の総額を、「グローバルCOEプログラム」の拠点リーダーのように、プログラム全体の研究費の受入研究者である場合には、プログラム全体の受入額を記入。

研究資金制 間（配分機関等名）		名	代表・ 分担の 別	平成22年度 の研究経費 （期間全体の額） （千円）	エフ オー ト （%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由
◎◎助成事業（H20～ H22） （●●●機構）		○△○△○	代表	1,000 (4,000)	10	事業全体の受け入れ額： 20,000千円 ×××××××××××××× ××××××××。
◆◆推進費（H21～ H23） （◇◇大学 募資 金）		□□○○ （★★★★）	分担	1,500 (4,000)	5	×××××××××××××× ××××××××××××。
（3） （1） 記入		特に名称のない機関内公募資金等は、当該資金の内容がわかるような名称を記入。			30	
合 計 （上記（1）、（2）、（3）のエフォートの合計）					100 （%）	

⑨「研究の斬新性・チャレンジ性」欄（挑戦的萌芽研究のみ）

○挑戦的萌芽研究のみ該当します。

研究の斬新性・チャレンジ性

本欄には、次の点について、焦点を絞り具体的かつ明確に記述してください。

① 本研究が、どのような点で斬新なアイデアやチャレンジ性を有しているか

② 本研究が、新しい原理の発展や斬新な着想や方法論の提案を行うものである点、または成功した場合に卓越した成果が期待できるものである点等

(3) 研究計画調書の作成等についての補足事項

研究計画調書の作成に当たっては、「公募要領」、「応募情報（Web入力項目）作成・入力要領」、各研究種目の「研究計画調書作成・記入要領」及び研究計画調書に記載している指示書きをよく読んで、記入漏れ等のないよう十分注意してください。

【応募情報（Web入力項目）関係】

<共通事項>

1. 応募者が、一旦「確認完了・提出」ボタンを押すと応募者側で修正ができなくなります。修正する場合には研究機関担当者が「却下」ボタンを押して、応募者が修正できる状態にした上で行うこととなります。
2. 「電子申請システム」は、長時間操作が行われない場合、インターネットからの接続を自動的に切断します。その際、それまで入力していたデータが消えてしまう可能性がありますので、入力が長時間にわたる場合は、「一時保存」ボタンを押してデータをこまめに保存してください。

<第2種・第3種科研費>

1. 細目の選定に当たっては、次の場合に分割番号を選択する必要があるので注意してください。
 - ・「総合・新領域系」の一部の細目（基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究）
 - ・基盤研究（C）の一部の細目
2. 次の入力項目は、研究計画調書には反映されないため、入力時に画面で確認してください。
 - ・関連研究分野研究者（特別推進研究（新規））
 - ・研究代表者連絡先（特別推進研究、基盤研究（S）、若手研究（S））
3. 特別推進研究の新規応募の場合は、「応募内容ファイル選択」において、日本語版と英語版のファイルを所定の欄にそれぞれ選択してください。なお、日本語版と英語版の応募内容ファイルを取り違えて選択しないように注意してください。
4. 特別推進研究の継続研究課題について、応募書類の提出は必要ありません。

ただし、研究計画の大幅な変更を行おうとする場合には、応募書類（研究計画調書）を提出しなければなりませんので、次の点に留意してください。

 - ・英語の入力項目は入力しないでください。
 - ・「関連研究分野研究者（4項目）」欄と、「海外の研究者による審査が適当でない場合」欄は、入力・チェックする必要はありません。
 - ・「応募内容ファイル選択」では、日本語版のみ選択してください。英語版は選択しないでください。

ださい。

- ・「関連研究分野（細目）」欄は入力しないでください。

【応募内容ファイル作成関係】

<共通事項>

1. 「研究業績」欄等に、学術誌への投稿中の論文を記入する場合は、掲載が決定しているものに限ります。
2. 例年、提出（送信）された研究計画調書の中に、白紙のページや、他の研究課題の応募内容ファイルが添付されているものが見受けられますが、そのままの状態では審査に付されませんので、十分注意してください。
3. 研究計画調書は審査資料ですので、極端に小さい字、行間、字間の狭いものなど、読みづらいものは避けてください。

<第2種・第3種科研費>

1. 研究種目毎の作成・記入要領とあわせて、以下の事項につきましてもご留意頂いた上で作成してください。

基盤研究（S）

基盤研究（S）の他、基盤研究（A）に当該応募研究課題と関連する研究課題を応募している場合には到達目標等の相違点を、また、関連のない研究課題を応募している場合には研究内容等の相違点を、「研究目的」欄に記入することとなっています。該当者は必ず記入するようにしてください。

基盤研究（A・B）（海外）

「研究計画・方法」欄には、調査研究実施国・地域及び旅行経路について必ず記入することとなっています。

「重複応募」欄には、同一年度内に審査区分「一般」及び「海外学術調査」の両方に新規の研究課題として応募する、もしくは平成22年度において審査区分「一般」の継続課題を有する者が「海外学術調査」の新規課題を応募する等の重複応募に該当する場合に必ず記入してください。

若手研究（S）

科学研究費補助金の研究代表者として受入予定の研究課題について、応募課題と関連する場合には到達目標等の相違点を、関連のない場合には研究内容等の相違点を「研究目的」欄に記入することとなっていますので、該当者は必ず記入してください。

【その他】

<共通事項>

1. 平成22年度公募について、文部科学省及び日本学術振興会ホームページ上に研究計画調書の応募内容ファイルを、関係通知と併せて掲載しています。研究計画調書の応募内容ファイルの作成に当たっては、ホームページから応募内容ファイルの様式をダウンロードして作成してください。
2. 電子申請システムによって入力された研究計画調書のデータは来年8月末で消去する予定ですので、必要に応じて各機関で保存等行ってください。

<第2種・第3種科研費>

1. 「評価ルール」(科学研究費補助金(基盤研究等)における審査及び評価に関する規程)については、10月上旬頃に日本学術振興会のホームページにおいて最新版を公開する予定ですので参考にしてください。

(4) 時限付き分科細目の応募に関する注意点

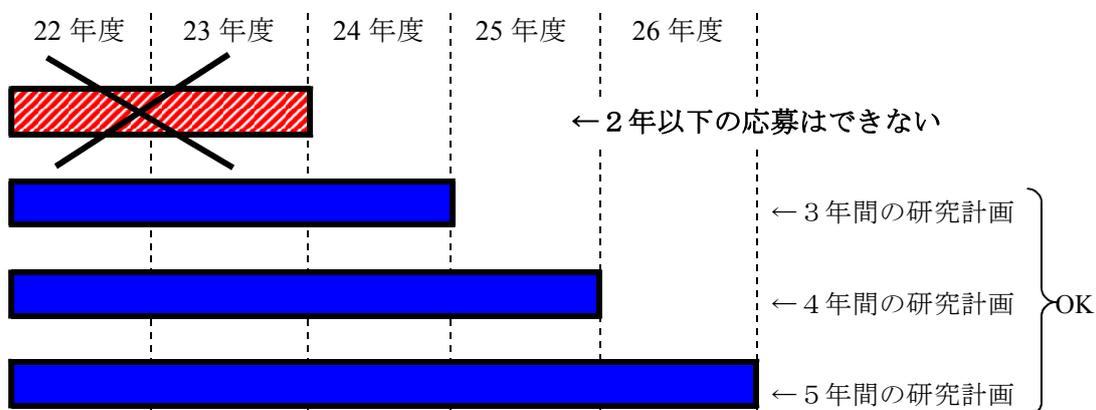
「時限付き分科細目」は、**基盤研究(C)についてのみ**適用される分科細目であり、学術研究の動向に柔軟に対応するため、「**設定期間**」を設けて応募を受け付ける審査分野のことです。

この「設定期間」は、日本学術振興会が**新規の研究課題の応募を受け付ける期間**のことを指します。例えば「設定期間」が平成22年度～23年度の「細目番号9041・デザイン学」であれば、平成23年度公募まで新規課題の公募を行うということになります。つまり「設定期間」というのは、あくまで**公募を行う期間**であり、必ずしもこの期間内に研究を終わらせなければならない、ということではありませんのでご注意ください。

なお、設定期間については、見直しが行われる場合があります。

例) 細目番号9041・デザイン学

設定期間：平成22年度～23年度



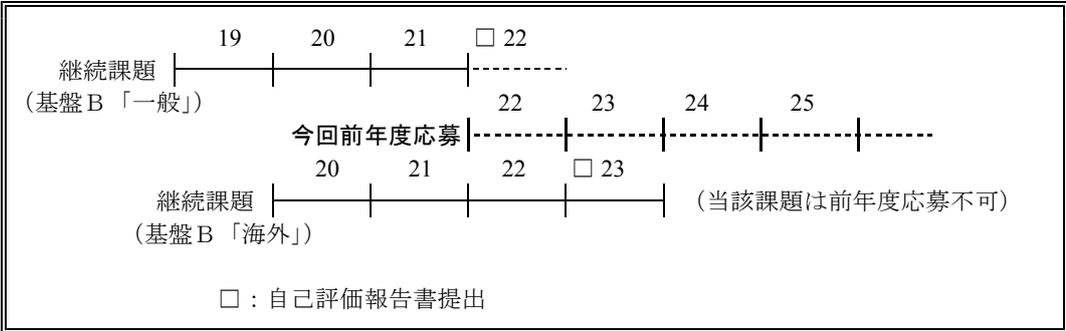
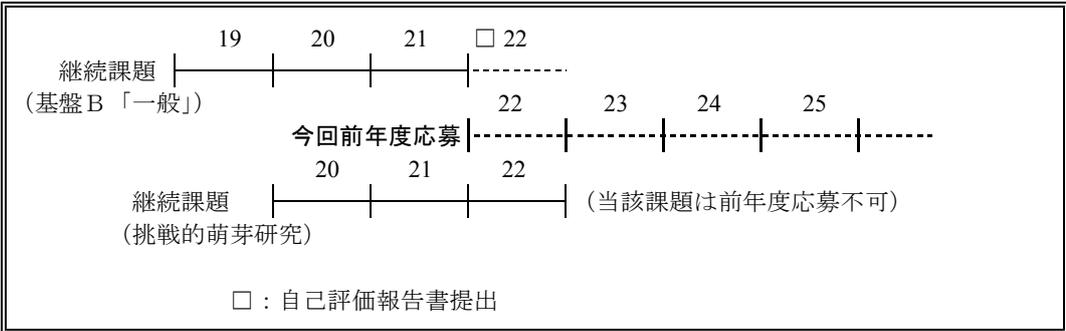
この場合、上記3通りの応募が考えられます。

(5) 研究計画最終年度前年度の応募について

- 最終年度前年度応募が可能となるのは、研究期間が4年以上（育休等に伴う中断により研究期間が延長されたものを除く）で、平成22年度が研究期間の最終年度に該当する研究課題（継続課題）です。
- 最終年度前年度応募により新たに応募することができる研究種目は、「特別推進研究」、「基盤研究」です。ただし、「若手研究（S・A・B）」の研究課題を基に、新たに応募することができる研究種目は、「基盤研究」のみとなります。
- 最終年度前年度応募により採択された場合、その基となった継続課題の平成22年度分補助金は原則として交付しません。交付した場合であっても全額返還することとなりますので、新規応募課題の経費には予め当該継続課題の実施に必要な経費の一部を含めて計上してください。
- 研究代表者は、当該継続課題の研究成果報告書を、平成23年6月20～30日までの間に提出しなければなりません。
- 研究計画最終年度前年度の応募の具体例

例	平成22年度の継続課題	研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等
1	<p>【前年度応募可能な特別推進研究1件のみ継続課題がある場合】</p> <p>○特別推進研究（研究期間：平成18～22年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> → 特別推進研究 → 基盤研究（S） → 基盤研究（A・B・C）「一般」 → 基盤研究（A・B）「海外」 <p style="text-align: center;">（※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"> 18 19 20 □ 21 △ 22 </p> <p> 継続課題 (特推) ----- ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;"> 今回前年度応募 ----- ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;"> 22 23 24 25 </p> <p style="text-align: center;"> □ : 自己評価報告書提出 △ : 研究進捗評価実施 </p> </div>	
2	<p>【前年度応募可能な基盤研究1件のみ継続課題がある場合】</p> <p>○基盤研究（A）「一般」（研究期間：平成19～22年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> → 特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能。） → 基盤研究（S） → 基盤研究（A・B・C）「一般」 → 基盤研究（A・B）「海外」（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能） <p style="text-align: center;">（※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"> 19 20 21 □ 22 </p> <p> 継続課題 (基盤A「一般」) ----- ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;"> 今回前年度応募 ----- ----- ----- ----- ----- </p> <p style="text-align: center;"> 22 23 24 25 </p> <p style="text-align: center;"> □ : 自己評価報告書提出 </p> </div>	

例	平成22年度の継続課題	研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等
3	<p>【前年度応募可能な基盤研究で複数の継続課題がある場合】</p> <p>○基盤研究（A）「一般」 （研究期間：平成19～22年度）</p> <p>○基盤研究（B）「海外」 （研究期間：平成19～22年度）</p>	<p>特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）</p> <p>基盤研究（A・B・C）「一般」 （※下記課題と重複するため、基盤S及び「海外」へは応募できない）</p> <p>特別推進研究（前年度応募ではなく、新規として応募することも可能）</p> <p>基盤研究（A・B）「海外」 （※上記課題と重複するため、基盤S及び「一般」へは応募できない）</p> <p>※1 継続課題当たり、上記の研究種目に1件のみ前年度応募が可能。その際、重複応募の制限にかかる研究種目（審査区分）に前年度応募できる課題は1件のみ。 （例えば、基盤A「一般」→特別推進研究に前年度応募した場合は、基盤B「海外」→特別推進研究への前年度応募は不可） ※特別推進研究が採択された場合には、他の研究課題は全て廃止する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">□：自己評価報告書提出</p> </div>

例	平成22年度の継続課題	研究計画最終年度前年度の応募可能研究種目等
4	<p>【基盤研究で2件の継続課題があるが1件は前年度応募ができない継続課題である場合】</p> <p>○基盤研究(B)「一般」(研究期間：平成19～22年度) → 特別推進研究(前年度応募ではなく、新規として応募することも可能)</p> <p>→ 基盤研究(A・B・C)「一般」</p> <p>※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能</p> <p>※基盤S及び「海外」には、下記課題との重複制限がかかるため前年度応募できない。</p> <p>○基盤研究(B)「海外」(研究期間：平成20～23年度) → 前年度応募不可</p> <p>(※研究計画最終年度の前年度でないため。)</p> <p>(※特別推進研究が採択された場合には、継続課題(基盤B「海外」)は廃止する。)</p>	 <p>□：自己評価報告書提出</p>
5	<p>【前年度応募可能な基盤研究と挑戦的萌芽研究の継続課題がある場合】</p> <p>○基盤研究(B)「一般」(研究期間：平成19～22年度) → 特別推進研究(前年度応募ではなく、新規として応募することも可能)</p> <p>→ 基盤研究(S)</p> <p>→ 基盤研究(A・B)「一般」</p> <p>→ 基盤研究(A・B)「海外」(前年度応募ではなく、新規として応募することも可能)</p> <p>※上記の研究種目のうちいずれか1件への前年度応募が可能</p> <p>※基盤C「一般」には、継続課題(挑戦的萌芽研究)と重複応募の制限がかかるため前年度応募できない。</p> <p>○挑戦的萌芽研究(研究期間：平成20～22年度) → 前年度応募不可</p> <p>(※前年度応募の対象となる研究種目でないため。)</p> <p>(※特別推進研究が採択された場合には、継続課題(挑戦的萌芽研究)は廃止する。)</p>	 <p>□：自己評価報告書提出</p>

